

体系整備検討委員会の審議経過

体系整備検討委員会は、平成16年10月19日の国民経済計算調査会議総会において、設置が決議された。

そのミッションは、

「国民経済計算体系の整備に関する事項について検討する。当面は、国民経済計算体系の観点からみた一次統計の改善及び国際的な93SNA改定に向けたわが国の対応を中心に検討を進める」こととされた。

構 成 員

	伊藤 彰彦	統計情報研究開発センター理事長
	河野 正男	中央大学経済学部教授
	作間 逸雄	専修大学経済学部教授
○	貞広 彰	早稲田大学政治経済学部教授
	篠塚 英子	お茶の水女子大学文教育学部教授
	清水 雅彦	慶應義塾大学経済学部教授
	武田 史子	東京大学大学院工学系研究科准教授
	田近 栄治	一橋大学国際・公共政策大学院公共経済コース教授
	橋本 紀子	関西大学経済学部教授
	原田 幸裕	作新学院大学総合政策学部教授
	星野菜穂子	大和総研経営戦略研究所主任研究員
	松原 望	上智大学外国語学部教授
	舟岡 史雄	信州大学経済学部教授

(平成19年9月20日現在、○印は委員長)

開 催 状 況

開催数	日時	主な議題
第1回	H16. 11. 29	<ul style="list-style-type: none"> 委員会立上げ(委員紹介、任期等) 調査審議の方向について
第2回	H17. 6. 16	<ul style="list-style-type: none"> 経済社会統計整備推進委員会報告について 今後検討すべき課題について 国民経済計算の推計レビューの開始について 石油公団の備蓄基地等の国への継承の取扱いについて 我が国のSNA体系の名称について
第3回	H17. 11. 17	<ul style="list-style-type: none"> 経済調査等業務の最適化と電子的提供の推進について 国民経済計算の推計レビューの検討状況について 平成12年基準改定における主な推計方法の見直し

委員会における審議

1. 第1回検討委員会

事務局より、本検討委員会のミッション（①基礎統計へのフィードバック（SNAの観点から見た1次統計の改善）、②国際的な議論に対する対応（2008年改定に向けた対応）、SNA推計方針に関する基本的な考え方、推計の流れなどについて説明があり、これに対し、主に、サービス分野の統計や家計調査など基礎統計とSNAの関係について議論を行った。

2. 第2回検討委員会

(1) 経済社会統計整備推進委員会報告について

経済社会統計整備推進委員会事務局より報告の概要について説明いただき、これに対し、統計制度の独立性の確保のための委員会での議論の内容や統計調査の民間開放、統計に関する法制度の見直しの実施時期などについて議論をおこなった。

(2) 今後検討すべき課題について

事務局より、来年度以降の課題と考えている「遡及系列の整備」、「労働生産性の推計」、「四半期別GDP速報の推計範囲の拡張」など計8項目について課題の説明があり、これに対して、地域ブロック別勘定の研究の推進、地域別の環境サテライト勘定の研究の推進、ストック統計の整備などの要望、また関連の議論をおこなった。

(3) 国民経済計算の推計レビューに向けて

事務局より、SNA推計のさらなる改善や透明性を高める観点から一般国民からも推計上の課題など意見募集を始めた（推計レビュー）ことについて説明があり、これに関しては、過去の統計データの掲載について委員より要望があった。

(4) 四半期別民間企業資本ストック速報における特殊法人石油公団の取扱いについて

事務局より、石油公団の推計における民間格付から一般政府格付に移行した部分に関する説明があり、公的・民間格付の分類について議論をおこなった。

3. 第3回検討委員会

(1) 統計調査等業務の最適化と電子的提供の推進について

総務省統計局担当事務局より、「統計調査等業務の最適化と電子的提供の推進」について最適化計画の概要などについて説明があり、統計用語の標準化、データのアーカイブ化、アウトソーシングの活用、分析ツール、民間統計の扱いなどについて議論をおこなった。

(2) 国民経済計算の推計レビューの検討状況報告

事務局より、一般利用者や国際機関などからあげられた推計上の課題などについて説明があり、G F S整備における日本の対応などについて議論をおこなった。

(3) 平成12年基準における主な推計方法の見直しについて

事務局より、実質化手法の連鎖方式への移行など推計方法の見直しについて説明があり、連鎖方式の問題点などについて議論をおこなった。